



## 巻頭言「就任挨拶」 理事長 山川 隆

5 月 24 日の総会、理事会で山崎哲男前理事長の後任として第 4 代目の理事長を拝命した山川隆です。これまで理事、執行役員としてもっぱら「まだ出来る人」プロジェクトを推進して来ましたが、これからは実装、NEDO パワエレ教育事業にも関係させていただきます。山崎前理事長には理事・会長として引き続き YUVEC の活動に尽力いただくことになっております。このほか、新体制では副理事長を実装担当の大竹康久さんと横浜国立大学大学院工学研究院教授の上ノ山周先生にお願いし、常務理事を引き続き実装全般を担当する合志誠治さんをお願いいたします。この場をお借りして皆様のご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

YUVEC は 2001 年の任意団体としてのスタート以来（2004 年に NPO 法人化）、何回か存続の危機があったと伺っておりますが、現在はよこはま高度実装技術コンソーシアム、NEDO パワエレ教育事業、ライフキャリア研究と活動領域を拡大するに至りました。これも、皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝いたします。

YUVEC の名刺に短く印刷してあるミッション「大学と地域を結ぶ」というのは大変素晴らしいことだと思います。またこの会報の名前“BRIDGE”は”大学と地域を結ぶ『架け橋』“であり、これまた YUVEC のミッションをよく表すものです。過去何回かの危機の時に言われたのと同じように、いま YUVEC が取り組んでいるプロジェクトは近々終わるのではないかとはいわれていますが、プロジェクトがミッションを全うするのは結構なことだと考えます。プロジェクトとは元々「始まりがあって終わりがあるもの」という定義だからです。しかし、大学と地域の架け橋となり、プロジェクトとなる案件を見出し、推進し、目的とするレベルまで持って行って完了させるという役割はプロジェクトと一緒に終わってしまってはならないと

考えます。

世の中は常にまだら模様でうまく伸びているところと、それと比べると見劣りがするところがあります。人間の知力は伸びていない領域の課題を解決して上手に伸ばすこと、伸びるところをさらに伸ばすことに使われなければなりません。あと 2,3 年したら人類は例えばエレクトロニクスに関するすべての進歩の余地を開拓し尽くし、それ以上の進歩はないという領域に達するというのもあり得ません。

安全保障、環境、エネルギー、IT、働き方、教育、健康など世の中は課題に満ち溢れています。課題やそれに関わるニュースの種は尽きることなく、ますます増えることでしょう。一つのプロジェクトがミッションを終えても、具象の層を一層取り去り、そのプロジェクトで獲得した知見、経験を次の課題解決に役立てて行くのが 10 年以上この活動を続けて来た YUVEC のミッションだと考えます。

引き続き皆様のお力添えをいただきながら、アンテナを張って取り組むべき課題に取り組み、解決に向けて活動する組織でありたいと願っております。



### 会報(No.34) 目次

- (1 ページ) 巻頭言 (山川隆理事長)
- (2 ページ) YUVEC 総会報告、YJC 総会報告
- (3 ページ) KAMOME-AP 活動報告
- (4～5 ページ) NEDO・YJC 実装技術セミナー・実装スクール報告
- (6 ページ) よこはま水素エネルギー協議会の歩み
- (7 ページ) 人生 100 歳時代に取り組む
- (8 ページ) 連載: 今さら聞けない入門講座 第 5 回「役に立つロボットとは？」
- (9 ページ) 連載: 研究室紹介 第 4 回 中村博之(経営学部教授)研究室
- (10 ページ) 就任挨拶(上ノ山周副理事長) 山川理事長、上ノ山副理事長略歴紹介
- (11 ページ) 退任挨拶(米屋前副理事長、一石浩司氏)
- (12 ページ) H29 年大口寄付者のご紹介、今後のイベント予定、編集後記

## YUVEC 総会・理事会報告

平成 30 年 5 月 24 日（木）、横浜国立大学共同研究推進センター2 階セミナー室にて第 15 回の YUVEC 総会並びに理事会が開催された。

定刻の 15:30 に事務局長福本の議事進行により開始され、委任状も含め会員総数の過半数を超える参加があるので、総会は有効に成立した旨の確認報告に続き、出席者の互選により山崎理事長が議長となり、議案の審議に入った。

最初に、山崎理事長から平成 29 年度（第 14 期）の活動報告並びに収支決算報告があり、続いて蒲池監事から監査報告がありいずれも了承された。

引き続き、審議事項第 2 号議案の平成 30 年度（第 15 期）活動計画ならびに収支予算案の件、第 3 号議案の定款改訂の件、第 4 号議案の役員選任の件につき説明と審議があり、いずれも全員異議無く承認された。

定款改訂の件では新たに理事・会長職を設けること、役員選任の件では米屋勝利理事と一石浩司理事が退任し、上ノ山周先生が新たに理事に就任することが承認された。

総会に続き、新理事も参加の下、YUVEC 理事会が開催され、理事の互選により、山崎哲男理事・会長、山川隆理事長、大竹康久副理事長、上ノ山周副理事長、合志誠治常務理事、執行役員の選任が承認された。

16:30、総会・理事会は終了した。



その後、退任される米屋先生から、横浜国立大学工学部電気化学科をご卒業後に在社された東芝時代、横浜国立大学工学部及び同大学院環境情報研究院教授をされた時代、それから今日に

至るまでのお仕事・ご研究を振り返ってのご講話をいただいた。

米屋先生はセラミックの世界的な権威でいらっしゃいますが、そのご研究の奥の深さ、国際的な幅の広いご交流には改めて感動させられた。

米屋先生の益々のご活躍とご健勝を祈念致しております。

（福本正儀 記）

## 第13回 YJC 総会報告

平成 30 年 6 月 12 日（火）横浜国立大学共同研究推進センター2 階セミナー室にて第 13 回 YJC 総会並びに理事会が開催された。

会員総数 63 名（法人会員：27 社、個人正会員：36 名）のうち、出席者 42 名（本人出席：12 名＋委任状出席：法人 16 名、個人 14 名）と 67% の出席率にて会議要件成立。

規約に基づき白鳥理事長が議長に選任され「密度の濃い活動をシニア主体で進めており、本年度は将来を見据えて今後の課題解決に向けて集中論議して推し進めて欲しい。」旨の挨拶があった。

配布資料：第 13 期（2018 年度）YJC 総会討議資料をもとに 1）第 1 号議案「2017 年度（第 12 期）活動報告・収支決算報告・監査報告の件」2）第 2 号議案「2018 年度（第 13 期）活動計画・収支予算審議の件」を審議し、いずれも満場一致で可決承認された。

このあと、出席役員、会員及び事務局の自己紹介があり、交流を通じて、現在の YJC の強みと弱みが浮き彫りにされた。

出席者は以下の通り（順不同、敬称略）  
白鳥正樹、村富洋一、合志誠治、大竹康久、小泉孝昭、高木 清、本多進、宮代文夫、山崎哲男、山川 隆、青木 亨、出口 博一、森川欣爾、福本正儀、鷹野征雄、佐脇清和

以上  
（鷹野征雄）



# KAMOME A-PJ 活動報告

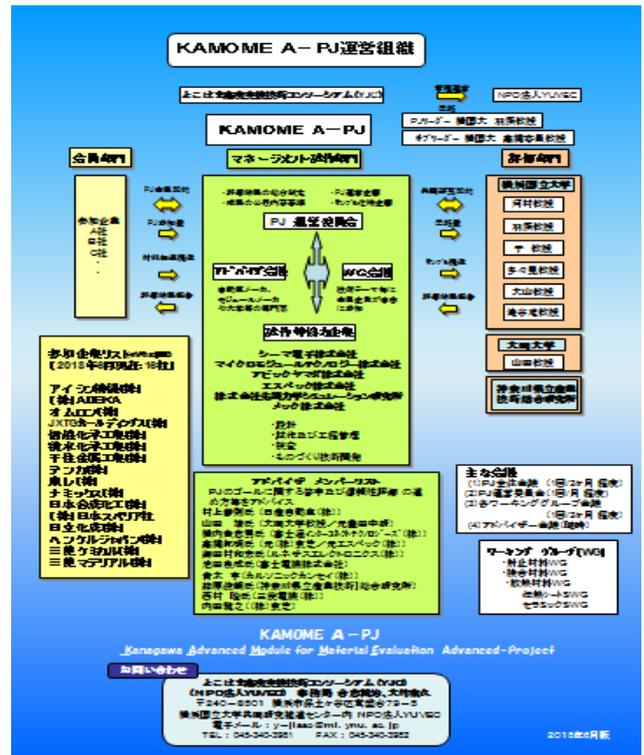
「KAMOME PJ」は、1 期 2 年の 3 期にわたり計 6 年間活動し、先々期末に一旦区切りをつけました。6 年間の PJ 活動結果としては、高 Tj パワーモジュール用実装材料の信頼性評価を行うプラットフォームを確立することができ、PJ の計画通りとは言えませんがそれに近い成果を上げました。しかし残された課題もあり、更に深く信頼性評価に取り組むべしとの会員企業の強い希望もあり、先期から 3 年間の「KAMOME A-PJ」(KAMOME Advanced-Project)として再スタートして、今季 2 年目を迎えました。

現在の会員は、継続会員がアイシン精機(株)、(株) ADEKA、オムロン(株)、協立化学産業(株)、JXTG ホールディングス(株)、積水化学工業(株)、デンカ(株)、千住金属工業(株)、(株)日本スペリア社、ヘンケルジャパン(株)の 10 社、新規会員が信越化学(株)、東レ(株)、ナミックス(株)、日立化成(株)、三菱ケミカル(株)三菱マテリアル(株)の 6 社で、今後の入会を検討している企業が 3 社ほどあり、本プロジェクトに対する関心の高さがうかがえます。その理由は、昨今の世界的な自動車電動化への流れです。小型化、低価格化を実現するためには、高温動作に耐えうるパワーモジュールの高性能化と高信頼性を達成すべきモジュール構成材料の開発が必須で、本プロジェクトがその技術開発に正面から取り組んでいるからといえます

参加企業から提供されるモジュール構成材料は、主要なものでも封止材料(樹脂)、接合材料(銀ナノ、銅ナノ等)、放熱材料(セラミックス基板、伝熱シート等)があります。材料毎に各社から提供された開発材の基礎的な材料特性評価を行い、HT (Heat Treatment)、TCT (Thermal Cycle Test) や PCT (Power Cycle Test) にて熱的負荷をかけた後の SAT 観察や熱抵抗測定及び断面観察等で得られた結果から、材料特性で信頼性向上に効果のある因子は何かを推察し、各材料開発の方向性を示唆します。最終的には、優れた信頼性評価結果を得た各材料を用い、信頼性評価プラットフォームにて作製したモジュールを試作して動作試験を行い、総合力を評価

します。材料ごとに分科会(ワーキンググループ: WG)を構成していますが、各 WG では競合企業が同じテーブルで技術開発に取り組むオープンイノベーションが実現しています。

2 ヶ月毎に開催される全体会議では、その間の試作評価の進行状況が各 WG から報告されますが、参加企業にとっては、エンドユーザーでもある電機メーカーや自動車メーカー及びデバイスメーカーの第一線の技術者であるアドバイザーから毎回率直なコメントを頂けるのが魅力の一つです。



昨年の 11 月に、参加企業が集まって初めての交流会を開催し、年末の全体会議終了後にも交流会を実施しました。本プロジェクトは、技術情報交換会的な色彩も強いのですが、お互い競合企業であるので自由にコミュニケーションを取ることが出来ない難しさがあります。しかし、交流会は企業の壁を低くする役割を果たし、非常に好評でした。

尚、後述する NEDO「先端パワーエレクトロニクス技術体系教育講座」受講生の半数近くが、当プロジェクトの関連企業(会員企業 16 社、試作等協力企業 6 社、アドバイザー所属企業等 9 社)に所属の方で、KAMOME A-PJ の研究開発事業と NEDO の技術者育成教育事業が我が国のパワエレ事業の発展に寄与すべく相乗効果を発揮し始めたと言えます。(大竹康久 記)

## 「NEDO パワエレ教育」報告

NEDO 委託事業の「先端パワーエレクトロニクス技術体系教育講座」は、横浜国立大学が受託し、運営の再委託を YUVEC が主幹事業として受託して 2015 年の企画段階から数えて 4 年目になる。

ベーシック・コースとアドバンスト・コースそれぞれ夏学期/冬学期を各 2 回/年の 4 講座を積み重ね、年々運営面等でレベルアップしている。この委託事業は来年度に終了するが、好評で要望も多いこのパワーエレクトロニクス技術者育成活動を継続する仕組みの構築が課題である。現在検討を進めている「e ラーニング化」等ではアンケート集計内容の紹介でその経過報告としたい。

詳細は割愛するが、全体として現状講座の延長を希望され、e ラーニング+実験/見学の組合せの要望が多かった。又、ベーシック/アドバンスト・コースの両講座を選択受講できる要望も多く、継続事業として現講座終了までに体制整備を急がれる。

本年度のアドバンスト・コース夏学期は、6 月 21 日から 28 日まで 6 日間実施され、その速報を掲載する。応募者 25 名、受講者 20 名、終了者 19 名前回から取り入れた受講レポートの電子化で最終アンケートも含め参加者からの回収も比較的スムーズに対応できた。最終日はそのせいもあり予定より早く交流会に移行でき、当初不参加の企業も追加参加で企業間交流が盛り上がった。参加者の中には是非継続開催の希望も多く企業参加の有料のコンソーシアム設立の要望もあったほどである。

【(写真: 下「初日の昼食交流会、右上から「第 1 日、山本講師授業」「第 2 日、シーマ電子株式会社見学」「第 3 日、澁谷研究室見学」「第 6 日、特別講演 荒井講師との討議」】





(写真上：第6日、修了証書授、集合写真、交流会)

## 「YJC 実装技術セミナー」報告

第47回実装技術セミナーは、2018年6月12日（火）に『AIとロボットの融合・人間や生物運動近似ロボットの開発動向と実装技術の課題を探る』のテーマで開催された。ネットワークにつながるAIとロボットとの融合の進展状況や人間、生物の運動に近似したロボット開発や先導する開発プラッ

トフォームなど今や多岐にわたる分野で話題も多く新たな分野へ応用開発で期待される注目の先進のロボット開発状況を専門の先生方から裏話も含めて直接興味深い話が聞けた。講演後の質疑応答も活発で足りない時間は終了後の技術交流会でも更に盛り上がりを見せ、講師の方々と参加企業の方々との情報交換は有意義な場となった。参加者35名（完）（佐脇清和）



(写真：講演と交流会)

## 「実装スクール」報告

この「JISSO スクール」は、大学が苦手とした後工程の実装研究を工学レベルまで引き上げる必要性から、実装技術者教育により専門化された技術者が実装技術全体を俯瞰でき、商品開発と設計能力を持ち中小企業も自ら商品を開発してビジネス展開するようにしたい。と当初から携わってこられた諸先輩の意志を受けて趣向を凝らしながら継続してきた。前年度は時代の潮流をとらえた「IoT 時代の実装技術」がテーマではあったが、座学よりも見学（現場、現物確認）の受講が多いことから、本年度は継続可否も含め見直しを検討する時期となっている。（佐脇清和）

## 『よこはま水素エネルギー協議会 の歩み』

YUVEC は、「大学と産業界・地域社会の期待と要望を結ぶ」架け橋「」を標榜し、実装関係を主として、企業 OB が事務局業務を担当しながら、大学人（現役・OB 教員）及び産業界関係者（現役・OB）と一緒に活動しています。



2010年6月 「第6回環境経営シンポジウム」

その中で、今日的課題の一つである「環境問題」に関し、横浜市の支援を得て 2009 年～2011 年「環境経営シンポジウム」を実施してきました。その後この活動を発展解消し、新たに何か環境分野において貢献できないかと種々議論を進めてきました。当初は、「大岡川に鮭を呼び戻す!」「大学が所有している平塚農場の活用が出来ないものか」など議論百出の状態でした。拡散した議論を収斂する過程で、大学の強みを発揮できる分野を取り上げてはどうかと言う事になり、HESS（水素エネルギー協会）の歴代会長他幹部を輩出するなど、学内外で影響力のある「水素」分野と先駆的な役割を果たしてきた「安全工学」をコラボレートし



2015 年 8 月

オープンキャンパス（燃料電池実験）



2017 年 8 月

藤沢市子ども水素学習会 in 藤沢

た「安心の水素エネルギーのためのかながわモデル」をコンセプトに、クリーンエネルギー社会の実現を目指し、水素エネルギーを普及させるため 2014 年 2 月 10 日、横浜国立大学を中心として、産官学の連携組織として本協議会が、発足致しました。

爾来、産業界（千代田化工建設、JXTG エネルギー、東京ガス、日産自動車など）、官界（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）などの賛同を得て、セミナー（9 回）を中心に関連施設の見学、大学のオープンキャンパスへの参画など学内外の啓発活動を積極的に推進してきました。

その結果、社会的認知度も高まり、セブンイレブン環境基金の助成をはじめ、大学・行政・金融機関などから財政的支援を得る事が出来るようになりました。スタートアップとしての YUVEC の役割は 2018 年 3 月末を持って終了、4 月以降その事務局業務を大学（グリーン水素研究センター）に移管する事となりました。

同協議会の益々の繁栄を祈念申し上げます。  
(山崎哲男)



2017 年 10 月

第 9 回よこはま水素エネルギー協議会セミナー

## 人生 100 歳時代に取り組む

このシリーズで BRIDGE にご報告するのも第 3 回を数えるに至りました。

前回報告以降色々進展があります。まず、皆様にご支援ご協力をお願いしていた『「まだ出来る人」の“隙間時間”活用セミナー』は予定通り、3 月 5 日、横浜港の波止場会館で盛況のうちに開催することが出来ました。

当日は激しい雨にたたられ、来られない人も多いのではと心配しましたが、申込をされた方には 9 割近くご参加いただき、62 名の参加となつて席はほぼ埋まりました。

共催していただいた横浜国大成長戦略研究センター、また後援していただいた神奈川県、横浜市経済局、横浜市大、関東学院大学、横浜信用金庫、神奈川県中小企業家同友会の皆様、基調講演、パネルにご参加いただいた講師の方々にはこの場をお借りして篤く御礼申し上げます。

またご協力いただける同窓会として交流会に参加し、ご紹介に参加いただいた富丘会、国大化学会、横浜電子情報工学会、三工会、弘陵造船航空会、横浜物理工学会（以上横浜国大）、進交会（横浜市大）の幹部の方々に御礼申し上げます。

3 月 23 日には日経新聞朝刊に同窓会の協力を得て推進する YUVEC の高齢者職場還流のプロジェクトが大きく紹介されました。

同じく、3 月下旬に私共は神奈川労働局（厚生労働省）に無料職業紹介の許可申請を提出し、受理していただきました。本件は中 2 ヶ月をおいて正式許可となり（許可証参照）、YUVEC は 6 月 1 日から正式に企業と人材との間に立つて職業紹介ができるようになりました。これがご報告していた 3 つの活動の内の 3 番目になります。

また、7 月からは 3 つの活動の第一番、“勤務方式研究会”（仮称）を開始いたします。第一回目は横浜国大常盤台キャンパスにて 7 月 23 日（月）17 時からです。すでに講師の先生も決まり、中核となる企業メンバーにも名乗りを上げていただきました。日本の雇用情勢、高齢者の

隙間時間活用に向いている業務の切り出し、それらの組み立て方、評価の仕方、報酬、高齢者法制、助成金、補助金に関わる制度等豊富な内容を計画しておりますが、それらに加えて研究会参加企業がお互いの知見、経験を交換することは必ずや実際の企業運営に役立つものと考えます。

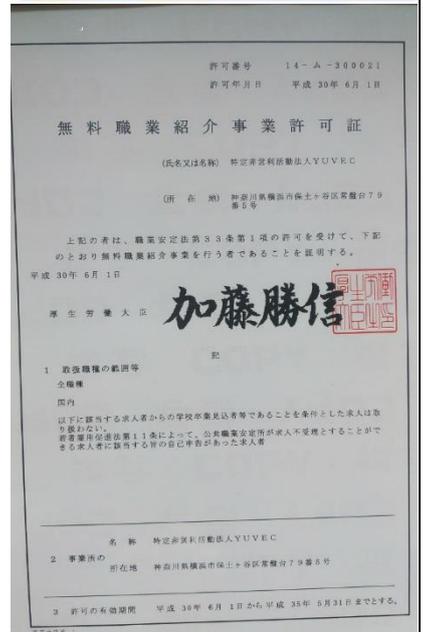
YUVEC の諸活動にご参加いただいている会員の皆様にはホームページや会報でお知らせする程度で、個別に詳細のご案内はしていませんが、本プロジェクトでは企業の求人需要に対して無料で人材をご紹介します。高齢者も含めて新しい働き方をどのように設計するかなど自社の事業上のメリットを引き出すための研究会はどなたにも扉が開かれています。ご関心をお持ちいただける場合は是非

特定非営利活動法人 YUVEC

E-mail: [yuvec100@ynu.ac.jp](mailto:yuvec100@ynu.ac.jp)

にお問い合わせください。

引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。（山川 隆）



連載：今さら聞けない入門講座

**役に立つロボットとは？**

YJC 理事 (YUVEC 会員) 宮代 文夫

「ロボット」というと、皆様が真っ先に目に浮かべるのは高性能 AI を搭載した高価な「ペッパー」とか、SONY の愛らしい犬ロボット「aibo」などでしょうか。

まず第 1 回の今回は「人と対話するロボット」を取り上げます。2～3 年前、私の声が突然かすれてきたことがあります。「のどに異物でもできたか？」と心配になり、近くの耳鼻咽喉科医にいきました。90 歳は過ぎていような医師で、「アーンと開いて」といい一目みるなり「ああこれはトシによるものだ。このごろあまりしゃべっていないのが原因だ。病気ではありません。カラオケでも行ったら？」といい、処方なし、終わり、でした。こんなじじいではあてにならない、ということで紹介状を別の医師から書いてもらい「みなと赤十字病院」へ行きました。ここでも女医さんが「トシという見立ては正しいですね。カラオケは有効です」とあっさり切り捨てられました。

世の中では話したくても相手がない孤独な高齢者は大勢います。この方達に向くのは(1)音声認識・対話型ロボット、(2)今はやりの AI スピーカ、といったところでしょう。市販されているものでかなりまともなものは図のような商品です。



19.5cm,  
390g  
シャープ  
製「ロボ  
ホン」

「ロボホン」は 21 万円その上基本月 1000 円のソフト使用契約をしなくてはなりません、個人を認識しますし Wi-Fi 経由で調べものもしてくれますし、メールもできます。「ミーちゃん」は 2 万円ほどですが、認知症の方々(特に女性)にはなかなか人気があるようです。もっと本格的なのは「AI スピーカ」ですね。



これは 5 千円から 2 万円程度です。

さて、このごろ「ロボットに奪われる職業は何か？」という話題がにぎやかです。高齢者対応のロボットではとても対応できなくても、普通のビジネス会話対応で済んでしまう職業は世の中で沢山あります。



一つは TV ショッピングです。「この TV 番組終了後 30 分以内に電話された方々には特価で提供するのでお早く・・・」というやつです。先方は当方の電話で住所が手元に明示されていますからその確認と商品の選択、支払方法を聞くなど、決まりきった会話のみです。高価なオペレータを沢山雇うより、「音声応答ロボット」で十分です。同様に銀行窓口業務、証券取引の大半も音声ロボットで済みます。M 銀行が「9000 名削減」と発表したのもこの手の見通しからだと思えます。

そうはいかないのが「医療相談ロボット」です。この需要は遠隔・緊急相談だけではなく、「人知れず相談したい」という需要も多いですから、「今すぐ大病院へ行く必要があるのか？」という切実なニーズに応えるためにも、豊富な症例を内蔵したデータを参照しながら適切な応答をするロボットの開発が待たれます。このロボットが登場すれば、救急車呼び出しの濫用も、大病院の混雑も緩和される、と思うのですが。冒頭の「声かすれ」も 2 つの病院へ行く必要はなく、音声応答ロボットですむはずですね。また「ダイヤ乱れ、欠航などの問い合わせ」、ホテルのコンシェルジュを自動音声対応ロボットシステムにしてもいいでしょうね。

さて、次回以降は「災害対応」ロボット、「過酷環境対応」ロボット、「3K 環境対応」ロボット、「手術対応」ロボット、「ものづくり」ロボット、「食品加工」ロボット、「宇宙機器用」ロボット、「農業用」ロボット、などのうちから面白そうなものを選んで、逐次ご紹介していきます。乞ご期待!! 原発の廃炉ビジネスなどは高性能ロボットの開発なくしては進めません。

ではまた次回。

## 連載第4回 研究室紹介 経営学部 中村 博之(教授)研究室

このたびは私の研究室紹介という依頼を頂きました。前号までの理科系の先生方の実験室とは異なり、設備等を用いての実験などもなく、物的に目に見える形での成果はないので、学生とのゼミナールでの勉強とその成果についてご紹介したいと思います。少人数がグループで研究するという点では、理科系の研究室に近いものかと思います。

私が教育指導を行っているのは、経営学部ですが、3, 4 年生がゼミに入ってきます。ゼミへの加入は任意ですが、積極加入を呼びかけているので、ほとんどの学生がゼミに参加しています。現在、4 年生は 2 名、3 年生は 8 名が中村ゼミに所属して、毎週、一緒に勉強しています。

ゼミナールでは、教員が専門とする研究に基づき、講義以上に会計の専門的な側面を勉強することになります。私は、会計・情報学科の教員で、広くは会計学の研究者ということになります。ただし、会計といっても広範囲にわたることから、とりわけ、企業の部門組織の業績評価や工場設備プロジェクトの意思決定などを扱う管理会計、さらに、製造した製品のコストがいくらかを明らかにする原価計算を専門として、学部や大学院でこれらの科目を講義しています。この講義延長上で、ゼミでは、管理会計や原価計算の様々なテーマから興味深いものを集中的に研究してもらっています。

ここで、このようなゼミでの研究スタイルは多種多様です。私が学生時代には、文献を選んで、それを熟読し、ゼミで議論するというのが一般的であったように思います。私が大学時代には、研究面での学外との接点はありませんでした。ところが、他大学の大学院に進学したところ、別の大学と共通テーマを決めて研究報告とそれに関する熱烈な議論をするというインター・ゼミなるものが行われておりました。その後、時を経て、たまたま、同業者である会計研究者と、このような研究発表と討論を行おうという勧誘がありました。以前の大学院での経験もあり、この企画に参加しました。爾来、十有余年を経て、3 つのゼミということは変わりませ

んが、参加する大学の構成も変わりました。現在は、本学に加え、中央大学と青山学院大学となりました。この各大学 3 年生による、研究発表会を持ち回りで開催しています。ちなみに、今年は、12 月に横浜国大ゼミが主催校となり開催の予定です。

昨年は下記のテーマが報告されました。

中央大学

- ・アメーバ経営システムの効果に対するトランザクティブ・メモリー・システムの影響
- ・組織における経験学習と直感に関する実証的研究
- ・上司が表出した感情的な怒りに対して部下が正当性を認知するメカニズムの解明

青山学院大学

- ・セブンイレブン×青学
- ・青山『極』白湯麺

横浜国大

- ・事業部業績評価指標の比較研究－ROI、RI から EVA へー

中大はデータ分析による研究、青学は企業コラボの企画提案、本学は文献研究型ということで流儀は違いますが、同じ管理会計のバックグラウンドのもとでの若い学部生の自由闊達な研究発表は面白いもので、どちらかという物静かな本学の学生には良い刺激となる企画だと思います。また、研究の共同作成による一体感の醸成もあってか、卒業生と会うとゼミ最大の思い出のようです。このような雰囲気の一部が下記のゼミ旅行の写真にあるように思います。いっつもながら、このような経験を通じ、ゼミ生が豊かな人生を過ごせることを願っています。(完)

(中村博之)



北海道ゼミ旅行

(編集部注) 中村先生は今年の「横国 day」(9/29) の実行委員長を務められています。

## 副理事長就任の挨拶

### 上ノ山 周先生

このたび副理事長を拝命致しました上ノ山周と申します。もう 20 年近くも前によこはまティールオー株式会社とほぼ時を同じくして生まれた「よこはま大学ベンチャークラブ」が本法人の前身とお伺いしております。工学の「工」は、上の 1 本が天を表し、下の 1 本が地を表している。両者を鉛直に結ぶ意であると、元本学学長の飯田嘉宏先生から教わりました。天にある理想的な考えを地に足が着くように降ろすということでしょう。本会報誌のネーミング、Bridge は水平方向に結ぶ意かも知れませんが、縦横無尽にネットワークを拡げ、大学に在ると信じる良いものや素晴らしい考えを、地域社会に資するよう具現化すべく努めることが本法人のミッションであると理解致します。無いものを嘆いては何も始まらないでしょう。有るものを拾い上げ、つぶさに視ることが第一歩と考えます。とは言え、正直に申し上げて、中身はほとんど承知致しておりません。幸い、会長となられました山崎 哲男様、新理事長の山川隆様はじめ、私と同教室の羽深 等教授等、多くの方々を存じております。

各位のご指導宜しきを得て、些かなりとも使命を果たすべく努めて参ります。どうぞ、宜しく願い申し上げます。(完)

#### 【閑話休題】



北海道滝上（たきのうえ）町「虹の橋」



## 山川隆 理事長の紹介

1949 年生

1972 年横浜国立大学経済学部卒、日商岩井に入社。日本経済研究センター委託研究生、コロンビア大学東アジア研究所客員研究員を務めた後、84 年に米国で CompuServe と巡り合い、富士通、日商岩井によるニフティの設立に繋げ、86 年ニフティ設立とともに出向。ニフティ常務取締役の後、ドコモ AOL 社長、NTT ドコモモバイル社会研究所副所長、(株) ケイ・オプティコム CSO (チーフ・ストラテジー・オフィサー)、日本システムウェア (株) 副社長を経て 2008 年 6 月から 2012 年 3 月まで双日 (株) 産業情報部 IT 担当顧問。特許を取得し、2011 年 4 月ダイアゴナル株式会社を設立、同社代表取締役 (同社は 2017 年 4 月から休業)。2016 年 6 月特定非営利活動法人 YUVEC 理事就任

## 上ノ山周 副理事長の紹介

1955 年生

1982 年京都大学大学院工学研究科修士課程修了  
88 年 横浜国立大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)

82 年～91 年 日揮株式会社勤務

91 年～ 横浜国立大学工学部物質工学科に奉職

01 年～ 横浜国立大学大学院工学研究院機能の創生部門 教授 現在に至る

同大学工学部物質工学科 学科長、同大学大学院工学研究院機能の創生部門 部門長、同大学大学院教育総合センターキャリア 支援部 部門長、同大学 高大接続・全学教育推進センター長・全学教育部門長等を歴任

現在、同大学国際戦略推進機構基盤教育部門長、同大学大学院教育強化推進センター副センター長

#### 【専門分野】

- 流体工学
- 熱工学
- 化学工学

## 副理事長退任の挨拶

### 米屋勝利名誉教授

私は 2010 年にスタートした山崎哲男理事長の YUVEC 新体制で副理事長を仰せつかり、今年の 5 月に退任しました。理事長は就任に当って、①実装技術開発を最重点として深耕・拡大しつつ、②新事業・新分野の発掘を目指すことを新規戦略として設定し、期間中に下記のような成果を得てきました。

- ① 実装技術開発：個々の要素技術の進歩によって産学官連携の大規模プロジェクト（KAMOME-PJ）を発足させ、NEDO からは人材育成プロジェクト（JISSO スクール）を受託するなど国内外から高い評価を得るに至っております。
- ② 新事業の発掘：2014 年には、水素エネルギーの普及啓発を目的として産学官の連携組織「よこはま水素エネルギー協議会」（理事長太田健一郎）を立ち上げ、セミナー開催、オープンキャンパス参加、水素学習教室、関連研究・事業部門の訪問等によって積極的な啓蒙活動に努めてきました。2016 年からは「ライフキャリア研究会活動」として、「ダブルケア事業化」、「2025 年問題と男女共同参画」などの議論を展開し、2017 年度からは山川隆現理事長をリーダーとする『「まだできる人」の“隙間時間”活用プロジェクト』への取り組みを開始しました。

以上のように、私が在籍した 8 年間において YUVEC は既存テーマの深耕や新規テーマ発掘の活動において多くの実績を上げてきたと思いますが、このような成果は理事長をリーダーとする少数精鋭スタッフの熱心な活動努力と、実装技術他の学内外関係者各位の並々ならぬ支援の賜物であると思います。しかし私はといえば、各テーマの YUVEC 内議論に参加し必要に応じて関連情報を提供する程度にとどまったことを深く反省しております。これからは、山崎会長、山川隆理事長を両軸とする新体制の下でさらに発展するであろうことを祈念申し上げて退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（完）

## 理事退任の挨拶

### 一石浩司

本年、3 月 31 日をもって YUVEC を退任、横浜国立大学グリーン水素研究センターに移り活動が続けることになりました。

YUVEC では当初、事務局長としての任を命じられましたが、2014 年度によこはま水素エネルギー協議会発足後は、この方面の業務に専任することになり現在に至りました。

産官学の連携のもとに、クリーンエネルギー社会の実現を目指すこの協議会活動がここまで成長できたのは、YUVEC の管理運営の元であり、NPO としての存在意義の大きさを感じました。

ここに、改めて YUVEC に感謝申し上げる次第です。

（写真は F C V 国内試乗会第一号となった時のもの）（完）



### 【お知らせ】

#### 第 10 回

#### よこはま水素エネルギー協議会セミナー

日時：平成 30 年 7 月 19 日（木）

13:30～16:15

場所：横浜国立大学教育文化ホール

主催：よこはま水素エネルギー協議会

参加費：2,000 円（資料作成代）

お申込み方法：よこはま水素エネルギー協議会のホームページから web 申し込みをお願いいたします。

## 今後のイベント予定

YUVEC の本年中の今後のイベント予定をお知らせします。

- 7 月 23 日(月):第 1 回「勤務方式研究会」
- 9 月 29 日(土):第 2 回「勤務方式研究会」  
(横国 Day の YUVEC 主催講演会と抱き合せ開催)
- 11 月 26 日(月):第 3 回「勤務方式研究会」
- 1 月(日取り未定):第 4 回「勤務方式研究会」
- 3 月(日取り未定):第 5 回「勤務方式研究会」
  
- 8 月 16 日(木)17 日(金)20 日(月)~22 日(水):  
先端パワーエレクトロニクス技術体系教育講座  
ベーシック・コース開催
- 10 月(日程未定):YJC 実装技術セミナー
- 12 月 4 日(火)~6 日(木)、11 日(火)~13 日(木):  
先端パワーエレクトロニクス技術体系教育講座  
アドバンスト・コース開催
- 1 月 23 日(水)24 日(木)、30 日(水)31 日(木)、  
2 月 1 日(金):先端パワーエレクトロニクス技術  
体系教育講座ベーシック・コース開催  
(事務局)

### 【予告】

### 横国 Day(第 13 回 横浜国立大学ホームカミングデー) 平成 30 年 9 月 29 日(土)

YUVEC では詳細未定ですが、イベントを企画し、横国 Day に参加いたします。

#### YUVEC 【企画概要】

「人生 100 歳時代と言われる。少子高齢化で人材確保に悩む企業と元気でまだ働ける高齢者を職場へ還流させるシステム、新しい働き方・人材利用方法について考える。」上記企画概要に沿った「講演会」か「鼎談」を予定致しております。詳細は、後日発表の横浜国立大学ホームページをご参照ください。お楽しみに！

尚、今回の横国 Day 実行委員長は本 BRIDGE で「研究室紹介」をご寄稿いただいた経営学部教授の中村博之先生です。

## 大口寄付者紹介

平成 29 年度にご寄付をいただいた方々をご紹介します。変わらぬご支援ありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。寄付者

個人 小笠原 俊雄 様	15 万円
松原 政智 様	15 万円
安達 一彦 様	4 万円
	以上(事務局)

## 編集後記

今年は YUVEC の役員改選期に当たりますが、8 年に亘り、副理事長理事としてご指導いただいた 米屋先生が 5 月 31 日を以て退任されました。米屋先生には「KAMOME-PJ」の発足や「よこはま水素エネルギー協議会」の設立に当たっては一方ならぬご尽力をいただき、理事会、執行役員会等々では、いつもの確で示唆に富んだご発言・アドバイスをいただきました。ありがとうございました。

また、村富先生には 2015 年 6 月から 5 年に亘り、副理事長として大変懇切なご指導をいただきましたが、業務・ご研究が益々ご多忙とのことで、これからは理事として YUVEC の活動のサポートをお願いすることになりました。ありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。

同じく、昨年度を以って退任した 一石浩司<sup>元</sup>理事は YUVEC には 7 年の在籍で、2014 年 2 月に発足した横浜国立大学を中心とした産官学の連携組織である「よこはま水素エネルギー協議会」の立ち上げと発展に注力、学内外の啓発活動を積極的に推進してきました。4 月以降は大学(グリーン水素研究センター)に所を変えて活動を継続されます。ご苦労様でした。

一方、横浜国立大学大学院工学研究院の重鎮で、YUVEC とは浅からぬご縁のある上ノ山周先生を新たに理事としてお迎えすることになり、今年度の YUVEC は、山崎・理事長、山川理事長、大竹副理事長、上ノ山副理事長、合志常務理事の新体制でスタートすることとなりましたので、皆様におかれましては、引き続きご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

いよいよ暑さ本番、体調には細心の注意を払って、長くなりそうな夏を乗り切りましょう！

(事務局 福本正儀)